平成２２年度第４回千葉県文化財保護審議会議事録

日　　時　　平成２３年１月１７日（月）　午後2：00～5：00
場　　所　　千葉県文書館６Ｆ多目的ホール
出席委員　　濵島会長、岡本副会長、吉村委員、玉蟲委員、井原委員、
　　吉田委員、松崎委員、入江委員、杉山委員、赤坂委員、
　　黒須委員、福田委員、青木委員、
教育庁職員　　松岡副課長、永沼学芸振興室長、太田文化財保護室長、
　　萩原主任文化財主事、岸本主任文化財主事、八木主任文化財主事、
　　福田主任文化財主事、渡辺主任文化財主事、秋山主任文化財主事

１　開　会

２　会長あいさつ

３　室長あいさつ・博物館・文化財行政について（保護室長）

４　議事

（１）平成２１年度指定文化財保存状況等調査報告について

○絹本著色清涼殿八宗論図

【事務局】
＊説明(省略)
【会　長】
　調査をされた委員２名からご意見はありますか。
【委　員】
　絵自体はあまり傷んでいないが、表具は傷んでいる。ただし、平成７年度の状況調査と状況は変化していないようなので、管理が悪いわけではない。表具が傷んでいるため壁などに掛けて飾れない。金銭的な問題はあるが、公開するためにも、修理の方策を立てる必要があるのではないか。
【委　員】
　このような絵の様式や縁起の研究は最近活発に行われるようになっており、従来の見方にとらわれないようにしたいと考えていた。表具の状態は悪いが、大切にされて絵の状態は悪くない。縦２２１．２ｃｍ、横１４７．９ｃｍの大作である。
　今の状況では公開・活用には難しいが、事務局としても安全な公開について努力してほしい。
【会　長】
　ほかの委員の皆様は、ご意見ありますか。

【委　員】
　年代がなかなかうまく決まらないとのことだが、１６世紀をさかのぼるのか。
【委　員】
　全体的な様式からすると新しいが、山岳表現等は古い様式であり、はっきりわからない。
【委　員】
　この絵のテーマは宮中の仏事で、秀吉がはじめたといわれている。研究によると中世にもあるはずだとのことだが、見たことがない。室町時代は清涼殿では神事優先で、天皇直属の法事以外は仏事はしていないので文献からは見て取ることができない。もし、絵画のなかから見ることができるのならばぜひ関連事例を知りたいものだ。

【委　員】
　文献から見られない事柄が絵画の研究から見えてくれば興味深いことだ。各方面の共同研究が進むことが望ましい。そのように多くの人に見てもらう為にはやはり修理が必要だ。

【委　員】
　なぜこのようなものが千葉（関東）に伝えられているのかが不思議だ。徳川家がこのような宮中行事を執り行ってきたためか。寛永寺が力をもってくることなどによるものか。
【委　員】
　寛永年間になってしまえば、このような大作を描くのは宗達などだが、この絵は全く異なる。
【委　員】
　真福寺に伝来したものなのか。
【委　員】
　空海が大日如来に変化するという説話の劇的な場面を描いているので宮中で実際にこのようなことをやっているのかはわからない。八宗論といっても８人いない。
いつどのように伝来したものかは不明なところがある。
【会　長】
　保存状況としては、表具には問題があるが、管理については文化財に理解があり良好である。ただし、製作年代が八宗論そのものに関わるので今後の研究に期するところがある。研究や公開という点からすれば、表具の修理を行い、展開できるようにする必要はあり、事務局の調整をよろしくお願いしたい。

（２）平成２２年度指定文化財保存状況等調査報告について
〇石堂寺山王宮
【事務局】

＊説明(省略)
【委　員】
　昭和５７年度の留意事項調査で覆屋修理の必要性が指摘されて、平成１８年に覆屋が改築された。この際県には届けがなかったということであるが、本体ではないものの保存に関わることなので、届けは必要であったと考える。またその新設の際、本体も動かしていることから、現状変更届けも必要である。
　覆屋は大変良くできているが正面が開いており人が入って触れることができるので管理上の不安がある。
　また、蟇股は室町時代風、他の部分は江戸時代の様式が見て取れ、建立年代についても検討が必要である。本体の図面等については指定時のおおまかなものしかない。

【委　員】
　指定前の修理や指定時の詳細な図面は残っていないのか。古い写真などがあれば、比較ができるはずだ。
【委　員】
　指定前の修理は簡単なもので、図面をとるには至らなかったようだ。指定時も平面図ぐらいしか残っていない。
【委　員】
　向拝のところの象鼻は正面はつかないのか。脇が付かないのか。
【委　員】
　脇がつかない方が古い。
【委　員】
　腰板は前からあったのか。
【委　員】
　縁に当たる部分だが虹梁が今様である。修理以前の状況がよくわからない。
【委　員】
　本体を動かしたということか。
【委　員】
　本体は小さなもので、大人が何人かで動かし、覆屋の修理後もとに戻したようで、指定時の正確な位置は不明。
【委　員】
　擬宝珠は木製なのか。
【委　員】
　そうだ。
【委　員】
　腰板の写真は何を表しているのか。
【委　員】
　洋釘で修理してあり、あまりよくない状況を示している。
【会　長】

一般的な木鼻は獅子だが、ここでは山王社なので猿であり珍しい。
本体の修理における釘材の選定や覆屋の親切手続きで適切な対応がとられなかった点があったことから、今後、所有者、市、県は連絡をとりあうようお願いしたい。

（３）平成２２年度県指定有形文化財の答申について

（４）平成２２年度調査対象文化財の調査報告について

（５）その他

５　事務連絡

６　閉　会